



気づけば滋賀で、
暮らしてた。

移住はふとしたきっかけから始まります。

先輩に勧められて移住してきた方
琵琶湖で遊ぶという原体験があった方
いつの間にか両親が滋賀に引っ越していた方
地元で農業をやるのが夢だった方
滋賀の自然の中で暮らしたかった方

5名の移住ストーリーを通して、“滋賀ぐらし”の
魅力を少しでも身近に感じてみてください。

かたしの
移住ストーリー



遊び!!ら

滋賀県って琵琶湖しか無いって思っていない？琵琶湖はもちろん
だけど、他にも楽しめる場所がたくさんある！

映画のロケ地に利用されている 3

彦根城をはじめ、八幡堀や豊郷小学校旧校舎群、日吉東照宮、
びわ湖パレイなど滋賀県の至る所で映画やドラマ、テレビ番組
が撮影されている。またアニメの舞台になっている場所もある。
好きな映画やアニメの舞台巡りをしてみるのもおもしろい。

歴史的建造物や文化財の宝庫 4

国指定の重要文化財（国宝含む）の指定件数は825件で、東京・
京都・奈良に次いで全国4位。歴史と浪漫があちこちから漂っ
てくる。
京都ではほとんど残っていない応仁の乱以前の建造物が数多く
現存していて歴男&歴女にはたまらない見べき観光資源があ
る。延暦寺、園城寺（三井寺）金堂や石山寺、宝厳寺唐門、国
宝彦根城など足を運んでみる価値のあるものばかりだ。



豊郷小学校旧校舎群



園城寺（三井寺）

四季を楽しむ

四季を通してさまざまなことを楽しむことができる！

春 思わず息を飲む桜の名所が存在する。彦根城や海
津大崎、琵琶湖疏水など昼は青空、夜はライトアッ
プしている桜をゆっくりと眺めることができる。

夏 琵琶湖ではSUPやウィンドサーフィンなど夏ら
しい様々なアクティビティを楽しむことができ
る。湖岸緑地ではキャンプを楽しむカップルや家
族がたくさん。（海水のようにベタベタしないの
が湖のいいところ★）

秋 日吉大社、鶏足寺、湖南三山など紅葉スポット
が数多く存在する。もみじだけでなくメタセコ
イア並木の紅葉も滋賀では人気。

冬 県北部を中心に雪質やロケーションが抜群なス
キー場がいくつもあり、ウィンタースポーツも
楽しめる。アクセス良好で、県内なら日帰り
楽しむことも可能。

イベント

滋賀県は有名なアーティストのライブも来ないし、楽しい大きな
イベントが何も無いって思っていない？

TVでも毎年放送されてる 鳥人間コンテスト選手権大会 1

毎年7月に彦根市の松原水泳場で開催されている「鳥コン」。
個人から大学のクラブ・サークル、社会人チームなどが参加。
熱い思いをもった鳥人間たちが飛行距離を競って毎年挑戦を続
けている。

TMレボリューション西川貴教さん主催の イナズマロックフェス

毎年9月の中旬に草津市の琵琶湖畔で開催される西日本最大級
の野外音楽イベント。毎年さまざまなアーティストが出演し、
観客動員数30,000人以上を記録している。

近畿圏から多くの人押し寄せる湖上の花火大会 びわ湖大花火大会 2

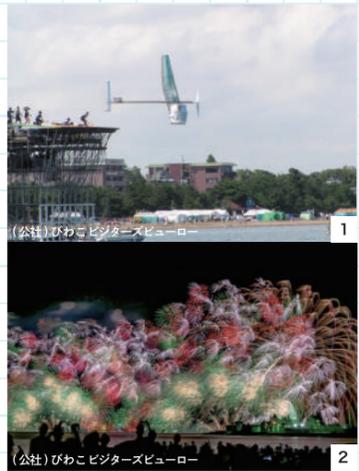
日本最大の湖、琵琶湖を舞台に繰り広げられる大花火大会。
毎年約1万発の花火が打ち上げられ、湖面を色鮮やかに彩っ
ている。様々な形の花火が打ち上げられるのも見どころ。

滋賀県人はお祭り好き！ 湖国三大祭

“長浜曳山祭”“大津曳山祭”“日吉山王祭”を湖国三大祭という。
それぞれ4月、10月、3～4月に開催され、どの祭りも毎年
多くの人で賑わっている。特に大津祭は江戸時代に始まった天
孫神社の祭礼で、重要無形民俗文化財に指定されている。

各地域で盛んにやってる 滋賀マルシェ

教育に関するものやハンドメイド、滋賀の特産品を使ったフ
ードマルシェなどさまざまなマルシェが滋賀県内各地で開催され
ている。出店をするもよし、ふらっと遊びに行ってみるもよし。
あなたが気になるマルシェが必ずあるはず！



あるんじゃない？





滋賀県民は気さくな人が多い。
フリーランスの人でも
孤独を感じることはありませんよ。

Profile

自己紹介

はなだ かずな
花田 和奈 さん

From 東京都 1ター

仕事内容

フォトグラファー /
コミュニティ運営 / コーチング

年代

30代

出身

京都府

現住所

大津市

大学卒業を機に京都から上京し、カメラマンとして働いていた花田さん。思いがけないきっかけから滋賀へ来る機会が増え、次第にこの地に魅了され、2020年に移住して来られました。「滋賀を拠点にしながらも、旅をしながら働いていきたい」と話す花田さんにとって、滋賀県はどのような場所に感じているのか、お話を伺いました。

Schedule

ある一日

- 7:00 起床
朝日を浴びる、植物に水やり、朝食。
- 8:30
前日の日記を書く、1日のスケジュールやメール確認。
- 9:00 仕事
オンラインミーティングや写真編集など。
- 12:00 昼食
自宅 or 外食（午前撮影がある時）。
- 13:00 仕事
ミーティングや午後から撮影。
- 18:00 夕飯
必ず家族みんなで食卓を囲む。
- 20:00 仕事
オンラインイベントの運営や写真の編集などを引き続き行う or 勉強。
- 24:00 就寝

ご職業と簡単な経歴を教えてください。
フォトグラファーとコミュニティマネージャーを軸にフリーランスで活動しています。フォトグラファー歴は七年ほどです。大学時代に初めてカメラを持って、美大生の友達の作品を撮ったりしているうちに、「クリエイターとして働きたい」という思いが湧いてきました。その時は趣味程度の力量だったのですが、「勉強しよう」と思って、大学最後の年に思い切ってフォトグラファーの専門学校に入りました。一年間専門学校に通いながら就活をしていたら、東京のあるスタジオで就職が決まったので、新卒からはずっと東京で働いていました。

そこからどういう経緯で滋賀に移住されたことになったのですか？
その頃から海外に行ったり、旅をしながら仕事をしたいという思いが強くなってきて、「このまま東京に住んでいる意味があるのかな」と思い始めていたんです。もし移り住むなら生まれ故郷の関西の方がいいなと考えていた矢先、コロナ禍で東京にいるメリットが更に下がってきたんですね。あとは、私が東京にいた間に両親が滋賀県に引っ越していったんです。しかも、私の知らない間に（笑）。それで、お盆やお正月の時に滋賀に帰る機会ができて、だんだんと「滋賀の自然環境ってすごくいいな」と思うようになりました。そうこうしているうちに、仕事のキリが良いタイミングがきたので、思い切って滋賀に移住して来ました。

最後にこれから移住を考える人へアドバイスをお願いします。
じゃなくて京都・大阪でも仕事を取れると思いますし、収入面としては東京にいた時とあまり変わらないです。私としては、滋賀での仕事の方が企業やキーマンの方との距離感が近く、人間味ある仕事が出来るという点でやりがいも感じられるので、メリットが大きいと思っています。距離感が近いと結果的に長い付き合いになるので、利便的な面でも東京での仕事とそれほど大差は無いと感じています。

新卒で入った会社はカメラマンの登竜門のような会社だったので、そこでスタジオオアシスタントとして一年間修行をしました。その後、アパレル会社などの専属カメラマンとして働いていたのですが、

コロナ禍ということもあって不安がなかったという噂になるのですが、滋賀での繋がりもあつたので、ありがたいことになっているとお仕事をいただいています。むしろ東京よりも地方の方が人手が足りていないと感じますね。県内だけ

滋賀県民は、外の方と積極的に交流したいという方が多いイメージなので、フリーランスの人でも孤独を感じるようなことは無いですよと聞いています。フリーランスのときは無いですよと聞いています。フリーランスのときは無いですよと聞いています。フリーランスのときは無いですよと聞いています。

Questionnaire

花田さんに、聞いてみた！移住アンケート



Favorite

滋賀じゃないとできないこと

休日の朝にコーヒーを飲みながら湖畔に足をつけてアーシング（裸足や素肌で大地などの自然に直接触れる）すること。湧き水が汲めること。



あこがれの場所に移住してきて、
毎日家族で食卓を囲むことができ
幸せです。

Profile

さのせいじ
佐野 誠二 さん

From 大阪府 1ターム

仕事内容 -----
カメラマン / 採用支援 /
ホームページ制作
年代 -----
40代
出身 -----
大阪府高槻市
現住所 -----
高島市

幼い頃、山・川・田畑に囲まれる
エリアで育った佐野さんは、「家
族と自然の中で暮らす」という理
想の生活を実現すべく、2020年8
月に家族で高島市へ移住されまし
た。フリーランスとして新たなス
タートを切った佐野さんは「魅力
溢れる高島や滋賀のことをもっと
たくさんの人に伝えたい！」とい
う熱い思いの持ち主でした。

Schedule

ある一日

- 7:30 起床
家族から遅れて起床。
- 8:00 仕事
妻と子供を見送り、ランニング。
その後、自宅の仕事開始。
- 12:00 昼食
自宅で昼食。
- 16:30 コミュニケーション
妻と子供が帰宅。
子どもと庭で野球の練習。
- 18:30 夕飯
家族みんなで夕食。
- 20:00 お風呂
子どもとお風呂。
- 21:30 仕事再開
家族と一旦寝室へ行き、その後仕事
再開。
- 25:00 就寝

簡単な経歴を教えてくださいませんか。

地元は大阪府高槻市です。高槻に住んで
いた時に人材採用の会社に入社し、十二
年ほど勤めていたのですが、最後の二年
半は転職になり東京で働いていました。
実は、転職が決まる前から移住を考え始
めていて、最初は転職先を探していたん
です。ただ、自分はサラリーマンに向い
ていないなと思っていたのと、会社勤め
だと思い描く生活が実現できそうにな
かったので、「独立しよう」と思って準備
をしていました。そんな中、田舎とは真
逆の東京への転職の話ももらったんです
ね。それで「三年頑張ったらいいか」と
考えていたのですが、三年経たずして
コロナ禍になり、仕事も休業になってし
まったので、そのタイミングで移住して
きました。

移住のことをご家族に相談したとき、
反応はどんな感じでしたか？

五、六年前に「移住したい」と言い出し
たとき、妻は「いや、無理でしょ」とい
うリアクションでした。とはいえ、自然
の中で暮らすということには共鳴してく

移住先はどのように決められましたか？

父親の実家が天津市の唐崎駅の近くだっ
たのですが、子供の頃に父に連れられて
湖西で釣りやキャンプをしたり、琵琶湖
で遊んだりしていたんです。そういう原
体験があったので、滋賀県の湖西の地域
には馴染みがあったんですね。

今の生活になって良かったことは何です
か？

毎日家族と一緒に晩ご飯を食べられるこ
とです。東京で働いていた際は仕事が忙
しく、住まいが埼玉だったこともあり、

この地で実現していきたいことはありませんか？

帰宅するのが真夜中を過ぎることも多
かったんです。家族との時間を優先で
きるのが、何より僕が一番願っていたこ
となんです。
あとは、高槻に住んでいた時に月一くら
いで登っていた大好きな山が、家の庭か
ら見えているんです。当時、あの山の
上から「こんなところに住みたいな」と
思っていたのがまさにこの場所、実際
に今住んでいるんです！

Questionnaire

佐野さんに、聞いてみた！移住アンケート

01 ワークライフバランスの変化

Private
移住前 20% → 90%

Work
移住前 80% → 10%

02 移住環境の満足度

95%

04 仕事の満足度

80%

03 所有している車の数

2台

05 プライベートの満足度

70%



Favorite

滋賀じゃないとできないこと

琵琶湖がとても美しく心癒され
る。
高島は水も空気も琵琶湖も本
当にきれいで、庭に出るだけで
心がスーッとなる。
登山が大好きで、移住前から
湖西の山に頻りに登っていた。そ
の山々が庭から見える幸せ。





クリエイティブの力で、
滋賀や地方のモノづくりを底上げしたい
と思っています。

「ご職業と簡単な経歴を教えてくださいませんか。」
ブランディングディレクターとして、主にブランドの立ち上げなどに関わるお仕事をしています。
十八歳の時に大阪のファッションデザイナーの専門学校に進学したのですが、在学中にインターンシップの関係で東京校に転籍し、それがきっかけで上京しました。ありがたいことにインターン先のアパレル企業からオファーをいただいたので、卒業後はその会社にデザイナーとして入社しました。
その後数社で働きましたが、年齢や経験とともに組織の中で働くことに面白味を感じなくなってきたんですね。そして、「自分の力でもっとシンプルに働きたい」という思いもあり、三十一歳の頃に会社を辞めて独立しました。いろいろなご縁もあって、独立を機に自身でブランドを立ち上げたのですが、それ以前から滋賀に帰ることは考えていたんですね。それで、五年ほどブランドの運営をして事業譲渡し、二〇二一年に地元に戻ってきました。都内には通算で十六年ほど住んでいましたね。

「滋賀に帰るきっかけになった出来事はありましたか？」
八年ほど前に母親が他界したことが、Uターンを考える大きなきっかけになりました。私は一人っ子なので、いざれ実家をどうにかしなければと思っていました。そういう理由もあって、場所を選ばずパソコン一つで仕事をするイメージをずっと持っていて、それを周りにも言っていました。そのうち、仕事に関しては自分のやりたい形に寄せてこられたので、あとは住環境だけだと思っただけです。ちょうどブランド自体も事業拡大のタイミングでしたが、私自身は「運営を続けたい」というよりも、「もっと働き方を変えたい」と思っていたので、「環境が良くて、心穏やかに無理せず好きなことができる場所に行こう」と思い、滋賀に帰ってきました。

「昔と変わったと感じる所はありますか？」
良い方向に大きく変わっているように感じます。田んぼの中に突然古民家が出てくるみたいな感じで、おしゃれで個人的なカフェもありますよね。一つ一つの距離が遠いというのではありませんが、田舎ならではの良さや新しいエネルギーとが相まって、素敵な場所がたくさんできていると思います。

「ご自身で運営されている地方の魅力を発信するメディア『all zine』(アールジン)は、どんな思いで始められたのですか？」
とにかく地方が好きなんです。地方には、職人さんが作るすごく良いものがあるのに、それを上手くPRできていないというところがよくあると思うんですね。それをクリエイティブの力で何とかしたいと感じています。もちろん、広まりすぎるとビジネスライクになってしまうので、広まらない良さもあるのですが、守るためにはある程度広めないといけない。そういうものに対して、自分の今までやってきた経験やフィルターを活かして滋賀のモノづくりや、将来的には地方のモノづくりを底上げしたいと思っています。私自身も all zine (アールジン)を通してインプット・アウトプットをしていて、地方の埋もれているブログや活動、フィードロスといった社会問題などを共有できるプラットフォームになれば良いなと思っています。



Favorite

滋賀じゃないとできないこと
四季を感じられるところと、湖岸をドライブできること。あと、地場野菜やお米・お酒など、地元の食が堪能できることが最高です。

Profile

やまさき あいみ
山崎 藍未 さん

From 東京都 Uターン

仕事内容
ブランディングディレクター / デザイナー
年代
30代
出身
滋賀県愛荘町
現住所
愛荘町

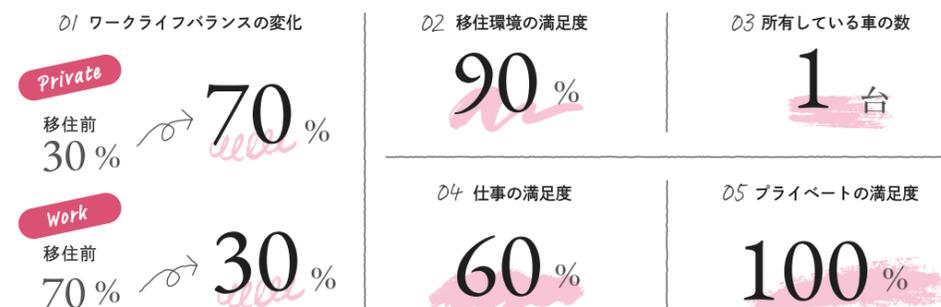
服飾学校在籍時に上京し、アパレル業界というクリエイティブな世界でデザイナーとしての研鑽を積んできた山崎さん。慣れ親しんだ地元滋賀に戻ってくるために、仕事の環境を整え、2021年に満を持して帰ってこられました。地方が大好きだという山崎さんは、自身が運営するメディアを通して「地方の良いところを見つけ出して守りたい」と語っておられました。

Schedule

- ある一日
- 7:30 起床
白湯を飲みながら瞑想やストレッチ。
 - 8:30 仕事&家事
メール等の返信・諸連絡 & 単純作業のみの仕事。合間に家事。
 - 10:30 オンライン打ち合わせ
 - 11:30 昼食
昼食づくりと夜ご飯の準備。
 - 13:00 外出
気になっていたスポットへ。
 - 17:00 帰宅&仕事
帰宅して、仕事再開。
 - 19:00 夕食
父と夕食を食べる。
 - 20:00 オンライン打ち合わせ
 - 24:30 就寝

Questionnaire

山崎さんに、聞いてみた！移住アンケート





自然が豊かで人が良い。
 そんな地元で
 農業をやりたいかったです。

Profile

しば たつ や
 柴田 達也 さん

From 京都府 Uターン

仕事内容
 農業のアルバイト/
 ジムのトレーナー
 年代
 20代
 出身
 滋賀県
 現住所
 東近江市

“地元永源寺に帰ってきて農業をやる”ということが高校時代からの夢だった柴田さん。学生時代に打ち込んだ野球で完全燃焼し、今は農業へ一直線だといいます。「農業で成功して滋賀から出ていった友達を地元へ迎えたい。」そう、まっすぐに語る柴田さんの地元愛を通して、滋賀・永源寺の魅力に迫ります。

Schedule

- ある一日
- 7:00 起床
 - 7:30 出勤
ミーティング前に仕事の先輩方とおしゃべり。
 - 8:00 仕事
作業開始。桑の収穫。
 - 12:00 昼食
家が近いので一旦家に帰って親に作ってもらった昼飯を食べる。
 - 13:00 仕事
引き続き桑の収穫。
 - 15:00 仕事
モリンガ(ワサビノキ)の加工。
 - 17:00 仕事終了
 - 19:00 夕食
 - 23:00 就寝
コーヒーを飲み終わって就寝。

簡単な経歴を教えてください。

東近江市、旧永源寺町の出身です。小学生から大学生まで野球をやっています。大学では京都に住みながら四年間野球に打ち込んでいました。大学でレベルの高い野球に触れて、野球をやることに達成感を感じたこと、そして高校卒業時から「夢が『地元永源寺に帰ってきて農業をやる』ことだったので、まずは資金を貯めよう」と思い、滋賀に帰って就職しました。新卒から車のディーラーで働いていました。が、地元の人と喋っているうちに「早く永源寺で農業がしたい!」と思い、予定を前倒して前職を退職し、今は農業のアルバイトをしています。

これから農業大学に通って、そこを卒業したら独立して自分で農業をやりたいと思っています。

高校から大学へ入学する頃に、たまたま農業の記事やテレビを見たのですが、最初は単純に「儲かりそうだな」と思ったんですよ(笑)。ただ実際は、職人的な

一面や天候に左右される部分、そして営業も必要というとても難しい仕事だと気づいて。いろいろと調べていくうちに、そんな農業に対して挑戦したいという気持ちに変わっていったんですね。それで、自分の挑戦に適したところはどこだろうと考えたときに、やはり生まれ故郷である永源寺の環境が一番だと思って、地元で農業をやろうと決意しました。

大学を出て「そのまま都会に住みたい、働きたい」という気持ちはありませんでしたか?

最初は都会で働くことも考えて就活をしていましたが、やはり滋賀に戻って来たいという気持ちが大きくなりました。大学4年間で京都に出てみて、自分としてはどちらも違和感なく住めたんですね。でもやはり落ち着くのはこの永源寺という町で。都会に行くのは休日に遊びに行くくらいで満足かなと思っただけです。

休日はどこに遊びに行かれますか?

湖岸緑地は良く遊びに行きます。夜に行くとテントを張って、対岸の夜景を眺めな



Favorite

滋賀じゃないとできないこと

琵琶湖があるので、湖岸でテントを張って、ゆっくりご飯を食べたりキャンプしたりすること。夜になると対岸の夜景が特に綺麗。

Questionnaire

柴田さんに、聞いてみた! 移住アンケート

01 ワークライフバランスの変化

Private
 移住前 20% → 40%

Work
 移住前 80% → 60%

02 移住環境の満足度

100%

04 仕事の満足度

100%

03 所有している車の数

1台

05 プライベートの満足度

100%



Favorite

滋賀じゃないとできないこと

琵琶湖、余呉湖を眺めてのんびり過ごすこと。伊香式古民家と豊かな自然の中で暮らすこと。ご近所さんとのお裾分け交流。山、川、湖を1日のうちに楽しむこと。

滋賀は自然のバリエーションが豊か。

なおかつ自然と町が近いので、

魅力的だなと思います。

Profile

自己紹介

ふなざき さくら
船崎 桜さん

From 東京都 1ターム

仕事内容

長浜市地域おこし協力隊

年代

30代

出身

埼玉県

現住所

長浜市

20代は大手新聞社の記者として国会や政治家の取材をしたり、IT業界で広報を担当していたという船崎さん。様々な業界を経験・見聞した中で、次の人生は滋賀県長浜市の地域おこし協力隊として活動することを決意し、移住して来られました。長浜に移住しようと思った心境の変化やきっかけ、旧伊香郡の古民家での暮らしについてなど、じっくりと語っていただきました。

Schedule

ある一日

- 7:30 起床**
 5時起きが当たり前のご近所さんに比べると、かなり朝寝坊。
- 7:45 朝食**
 トーストと目玉焼き。頂き物や手作りのジャムと一緒に。
- 9:00 仕事**
 仕事スタート。取材やミーティングのための移動も多い。
- 12:00 昼食**
 自宅で仕事の時は夫が作る昼食を食べる。
- 15:00 ご近所交流**
 仕事の合間にご近所さんにお裾分けに行ったり、もらったり。
- 19:00 夕食**
 旬の野菜たっぷりの和食が多い。
- 23:00 就寝**
 虫の声や風、川の音を聞きながら布団に入る。

長浜に移住してこられるまでの簡単な経歴を教えてくださいませんか。

埼玉県の本庄市出身で今三十歳です。東京の大学を出て、新聞社に入社したのですが、一年目の勤務地が滋賀県大津市でした。その後、宮城、東京と転動し、計六年間記者として働いた後、ITベンチャー企業に転職し、広報を担当しました。その会社は一年半くらい勤めたのですが、東京から出るのもアリだなと思って少し進路に悩んでいたんですね。そんな時に、長浜に移住していた新聞社時代の先輩から「すごく良いところだよ」と声をかけてもらったんです。それがきっかけで実際に何度か見に来たのですが、私自身も「長浜ってすごく良いところだな」と思って移住してきました。

様々な業界を経てこられましたか、どんな心境の変化がありましたか？

まず、記者時代に一番面白いと感じたのは地方にいた時でした。最後の一年間は厚労省の担当だったので、官僚の方とお話ししたり首相官邸で政治家を追いかけようという取材も経験したんですよ。でもやはり、地方で町の人にお話を聞いたり、

面白い話を探して書く方が自分としては好きだなと思ったんです。

その後働いたITベンチャーでは、広告システムやマーケティングの会社を通して、ビジネスの世界について知ることができましたが、これからの人生を考えたとき、「東京で会社勤めする」暮らしにこだわらなくてもいいのではないかと、という気持ちになりました。そんなタイミングで先輩から誘ってもらいました。

地域おこし協力隊では、どんなお仕事をされていますか？

長浜市の場合は、募集の段階である程度のミッションが決まっています、それに対してプレゼンなどをして協力隊に入らせていただきました。私の活動目的は、『移住・定住人口を増やす』ということなので、自分で街の方に取材などを行っています。具体的には、市役所が作る移住パンフレットの取材だったり、新聞関連誌の田舎暮らし紹介のコーナーで記事を書いたりしています。

あとは、長浜に移住してきた女性八人で協力して「サバイブユートピア」という雑誌を発行することを予定していますね。(二〇二二年三月発売予定)

移住してよかった事は何でしょうか？

「朝は鳥の声で目覚めて、まずきれいな川を見て、いい空気を吸う」という生活が当たり前になったのはすごく良いですね。毎日キャンプ場にいるような感覚です。少し歩けば立派な木がたくさん生えていて、紅葉が綺麗だったりお花が咲いていたりして、こういう環境にできることができたのは本当に良かったです。何より滋賀県は、山と川と湖が揃っていて自然のバリエーションが豊かで、なおかつ自然と町が近いので、魅力的だなと思います。

これから移住を考える人へのアドバイスをお願いします。

興味のある町があれば、ぜひ現地の方にいろいろな所に連れて行ってもらうてください。そうすれば、「こういう集落があるんだ」「こんな山の中にもすごいところがあるんだ」などと、その町をより深く知ることが出来ると思います。そういった中で自分が住む家や拠点にする場所を決めていくのが大事なかなと思います。

Questionnaire

船崎さんに、聞いてみた！移住アンケート

01 ワークライフバランスの変化



02 移住環境の満足度



03 所有している車の数



04 仕事の満足度



05 プライベートの満足度

